

自宅療養中の新型コロナ感染妊婦往診をしました

R3年8月28日 あさぎり病院 産婦人科診療部長 池野慎治

新型コロナウイルスが猛威を振るっており、全国的にも妊婦の感染が増加しています。ご存知のように、当院では、院内感染防止の観点から立会出産や面会の制限を行っています。これまで、みなさまにご理解ご協力いただき大変感謝しています。

年間約1,000件の出産を取り扱う当院は地域の周産期医療を支える大切な施設と自負しております。院内には2階3階の2つの病棟しかなく、感染者と非感染者の導線を分けることが物理的に困難な施設です。したがってコロナ陽性の妊婦さんの入院を受け入れることで院内感染を拡げてしまう可能性があります。

当院かかりつけの妊婦さんが新型コロナ陽性と判明した場合、保健所の判断で自宅療養もしくは指定の施設で管理することになります。入院された患者さんの入院施設には産婦人科の医師もいるので安全に治療が行われておりますが、退院になるとしばらくは自宅療養となります。また症状のない新型コロナ陽性妊婦やごく軽症の患者さんも自宅療養となります。おなかの中に赤ちゃんがいるのに、診察を受けることができないので大変な不安をかかえることとなります。先ほどもふれたように、新型コロナ陽性の方を当院で診療することが困難なため、[電話診療や自宅への往診を開始しました。](#)

先日当院医師・助産師でお二人の新型コロナ妊婦さんの往診を行いましたので報告します。自宅前に往診車を横づけして、医師・助産師が玄関前で診察用ガウン等を装着して訪問します。

今回のお二人のケースでは玄関が人目につかない場所にあり、目立たず訪問することができました。問診や呼吸状態の確認、赤ちゃんに異常がないか簡単な超音波検査などを行い母児ともに無事なことを確認でき我々も安心できました。

国内であった痛ましい新生児死亡のようなケースが二度と起こらないよう我々のできることを実践していきます。まだまだ見通しは立ちませんが、妊婦ワクチン優先接種の取り組みなど、みなさまの支えになれるようがんばりますので、今後ともご理解ご協力よろしく申し上げます。



往診の様子



※閲覧いただくみなさんの不安の解消になればと、画像の公開に快諾いただきました。